- For more records, click the Records link at page end.
- To change the format of selected records, select format and click Display Selected.
- To print/save clean copies of selected records from browser click Print/Save Selected.
- To have records sent as hardcopy or via email, click Send Results.

✓ Select All X Clear Selections

Print/Save Selected

Send Results

Format splay Selected Free

Dialog eLink: Order file history

1. 3/5/1 DIALOG(R)File 352:Derwent WPI (c) 2009 Thomson Reuters. All rts. reserv.

0003725852

WPI Acc no: 1986-172011/198627 XRAM Acc no: C1986-073798 XRPX Acc No: N1986-128427

Deodorant compsn. used to remove ammonia smell - comprises extract of oxalis, sasanqua, hemlock-spruce, crape myrtle, nandin,

chestnut, pine, and/or ginkgo with hydrophilic solvent

Patent Assignee: MATSUSHITA ELECTRIC WORKS LTD (MATW)

Patent Family (2 patents, 1 & countries)

Patent Number	Kind	Date	Application Number	Kind	Date	Update	Туре
JP 61103447	Α	19860521	JP 1984226202	Α	19841025	198627	В
JP 1990025623	В	19900605	JP 1984226202	A	19841025	199026	E

Priority Applications (no., kind, date): JP 1984226202 A 19841025

Patent Details

P	atent Number	Kind	Lan	Pgs	Draw	Filing	Notes
Ū	P 61103447	Α	JA	3	0		

Alerting Abstract JP A

Compsn. comprises extract of oxalis, sasanqua, hemlock-spruce, crape myrtle, nandin, chestnut, pine, ginkgo, with hydrophilic solvent and/or water. The hydrophilic solvent includes alcohols and ketone, partic. a mixture of methanol and water. The present compsn. is made into use in a concn. of 0.1 to 1% in water. The extraction is conducted, e.g. at 80 deg.C for 1 day.

Title Terms /Index Terms/Additional Words: DEODORISE; COMPOSITION; REMOVE; AMMONIA; SMELL; COMPRISE; EXTRACT; HEMLOCK; SPRUCE; CHESTNUT; PINE; HYDROPHILIC; SOLVENT

Class Codes

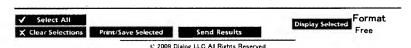
International Patent Classification

IPC	Class Level	Scope	Position	Status	Version Date
A61L-0009/01	Α	I	F	R	20060101
A61L-0009/01	С	1	F	R	20060101

File Segment: CPI; EngPI DWPI Class: D22; P34

Manual Codes (CPI/A-N): D09-B

Derwent WPI (Dialog'k File 352): (c) 2009 Thomson Reuters. All rights reserved.



⑫ 公 開 特 許 公 報 (A) 昭61 − 103447

⑤Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

❸公開 昭和61年(1986)5月21日

A 61 L 9/01

6779-4C

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

❷発明の名称 消臭剤

②特 願 昭59-226202

突出 願 昭59(1984)10月25日

⑫発 明 者 才 原 康 弘 門真市大字門真1048番地 松下電工株式会社内 四発 明 者 伊 ح 晴 行 門真市大字門真1048番地 松下電工株式会社内 門真市大字門真1048番地 松下電工株式会社内 砂発 明 者 山 内 俊 幸 ⑫発 明 者 長 田 光 司 門真市大字門真1048番地 松下電工株式会社内 者 門真市大字門真1048番地 松下軍工株式会社内 ⑦発 明 dř. 史 郎 小 門真市大字門真1048番地 ①出 願 人 松下電工株式会社

四代 理 人 弁理士 竹元 敏丸 外1名

明 和 曹

1. 発明の名称

消臭剤

2. 特許請求の範囲

(1) カタバミ、サザンカ、ツガ、サルスベリ、 ナンテ、、クリ、サネカズラ、ミズメ、ニシキマ ツ、イチョウからなる群の中の植物体より、水あ るいは親水性有機溶媒単独で、あるいはそれらを 組み合わせた溶媒で抽出したものであることを特 徹とする消臭剤。

(2) 特許請求の範囲第一項記載の消臭剤を単独あるいは複数の組み合わせで使用することを特徴とする消臭剤。

3. 発明の詳細な説明

〔技術分野〕

この発明は、生活環境汚染要因の一つである臭 気の除去に関わる技術分野である。

〔背景技術〕

近年生活環境の見直しが進むにつれ、生活環境

における臭気も、生活環境汚染要因の1つとして その除去に貼わる技術が注目されてきている。臭 気を除去するには、芳香性物質のマスキング効果 による感覚的消臭法、換気や臭気物質の吸収吸着 による物理的消臭法、中和、付加、縮合、酸化等 の化学反応により臭気物質を無臭化する化学的消 臭法及び、臭気物質を産生する微生物を減殺し臭 気の発生を阻止する生物的消臭法がある。

感覚的消臭法は、芳香性物質により臭気を除去 し得ても、臭気物質を除去し得ず、又芳香といえ ども、個人の好みにとっては不快と感じる場合が あるという欠点を有する。

物理的消臭法は、古くから汎用されているが、 換気では装置化が必要であること、吸収吸着剤で は、吸収吸着された臭気物質が、温度上昇によっ て再放出されるという欠点を有する。

(発明の目的)

この発明は、人間に不快さを生じせしめる臭気 の1つであるアンモニア臭を効果的に除去する性 能を有する消臭剤を提供することをその目的とす

(1)

るものである。

〔発明の開示〕

この発明は、カタバミ、サザンカ、ツガ、サルスペリ、ナンテン、クリ、サネカズラ、ミズメ、ニシキマツ、イチョウから成る群の中の植物体より、水あるいは幾水性有機熔集単独で、あるいはそれらを組み合わせた溶剤で抽出を行ない、抽出物あるいはそれらの抽出物を組み合わせたものが特にアンモニアに対して消臭効果を有する消臭剤であることを特徴とするものである。

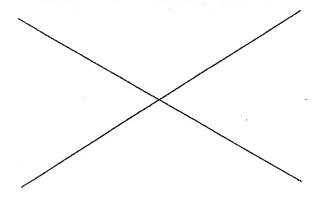
植物体の使用単位は特に似定されないが、業、 樹皮、心材、果実が適当である。

抽出時に使用する熔錬は、アルコール類、ケトン類といった親水性有機溶媒及び水単独で、あるいはそれらの混合溶媒であればよいが水とメタノールの混合溶媒が望ましい。

消臭剤として使用する際には、液体、個体状のいずれの形状で使用してもよく、特に限定されるものではないが、たとえば水溶液として使用する場合、0.1~1多の器度範囲で使用すればよい。

(3)

量添加後、直ちに密栓し振 した後、ヘッドスペースガスをとり、ガスを水に溶解しそのアンモニア量をネスラー法によって比色定量し、消臭剤無 必加のものに対しての臭気性存率を求め、臭気除 去率を算出した。その結果を第2 表に示す。



つぎに実施例を挙げて説明する。

(実施例1~10]

カタバミ、サザンカ、ツガ、サルスベリ、ナンテン、クリ、サネカズラ、ミズメ、ニシキマツ、イチョウの薬を採取し、おのおのの薬を粉砕後、水・メタノール混合溶媒で常温で1晩、80℃で5時間抽出し、抽出液を機能し粉末状の抽出物をおのおのの植物について得た。抽出物を各々1%の容骸と鱗壁し、消臭剤とした。

〔実施例11〕

カタバミ、サザンカ、ツガの1多溶液を各々同 跳づつ混合し、消臭剤とした。

以上の操作によって得られた消臭剤のアンモニ アに対する消臭評価を官能法及び定量法によって 行なった。

官能法は、希謝アンモニア格赦に消臭剤を一定 量添加した試料の臭気強度を10人のパネラーに よって6段階で評価した。その結果を第1表に示 す。

定量法は、希岸アンモニア溶液に消臭剤を一定

(4 ·

<u> 第1表</u>

									評価値
奖	施	例	1	カ	9		14	3	0, 6
			2	サ	サ		ン	カ	0. 6
			3	ッ				Ħ	1.0
			4	Þ	N	z	ベ	ĥ	1. 2
			5	ナ	ン		テ	ν	1. 3
			8	1				Ŋ	1. 6
			7	+	本	77	ズ	ラ	1. 7
			8	41		ズ		×	1. 8
			9	1	シ	+	₹	ッ	1. 9
			10	1	Ŧ		8	ゥ	2.1
比	#	K	By	1	ŕ		ン	7	4.4

半 2 表

_					
	T				除去率例
実 配 例 1	ħ	9	74	į	80
2	#	#	ン	カ	85
3	ッ			Ħ	82
4	#	n;	x ~	IJ	79
5	+	ン	テ	ン	75
6	1			ŋ	74
7	+	* 7	b ズ	ラ	70
8	3	;	ズ	¥	69
9	=	シュ	† 7	ツ	69
10	1	チ	9	ゥ	68
11	カラ	サイミ :	サザン	カ: 1	96
				_	•

註 1. 消臭効力官能評価は、6 段階臭気強度法を 用いた。6 段階臭気強度表示法

臭気強度	内 容				
0	無 臭				
1 .	非常に かすか				
2	かすか				
3	容易に感じる				
4	強い				
5	非常に強 い				

- 註2 比較例として消臭剤を添加しない溶液を同 量加えたものをブランクとして示した。
- 註 3. 評価値は 1 0 人のパネラーの評価の平均値 を示す。

[発明の効果]

この発明は、植物から得られる抽出成分を消臭 刺とすることを特徴とするもので、特にアンモニ ア臭を除去する効果がある。

(7)